

保育実践

担当：屋地

運動（0，1，2歳児）

子どもたちにとって身体を動かす事は、遊びそのもの。運動機能の発達段階を理解し、一人ひとりの発達のスピードに合わせてながら、安心して身体を動かせる環境や援助を考えていきましょう。

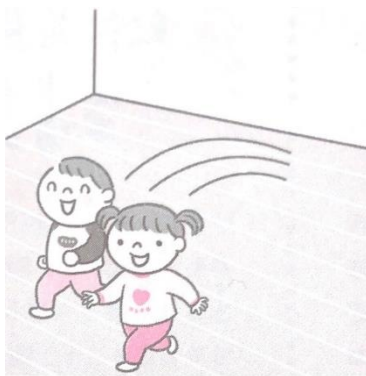
◇行動範囲が広がるので安全な環境を整える。

0，1，2歳児は運動機能がぐんぐん発達していく時期です。子どもの視界は広がり、目が離せなくなります。手が届く範囲が広がり、これまで届かなかったものに触ったり、つかんだり、引っ張ったりするので、危険のないよう安全な環境を整えましょう。

◇子どもは常にチャレンジ！その姿を見守って

走ったり、跳んだり、ぶら下がってみたりと、子どもはできる事へのチャレンジを常にしています。子どもの挑戦を見守り認める言葉をかけることが、運動機能の発達を促すことに繋がります。

保育者の支援



★室内でも走れる環境を作ってあげられると◎
走れるようになった1～2歳児の子どもたちは、どこでも走りだします。「ここでは走らないで」と、制限しなくてもよいように、工夫したりして走れる環境を作ってあげましょう。

※はいはい競争をしたり、少人数ごとにかげっこをしたりして楽しんでいきます。

★全員を使って遊ぶと疲れるので、休める場所があるとよいです。

★いろいろな遊び方を楽しむ



牛乳パックの台からジャンプしたり、風船クッションの上で寝転んだり、飛び乗ったり子どもたちは楽しいを見つける天才です。危険がない限り、子どもの発想を大切に！

でこぼこマットや平均台マットを使っての、サーキット遊び。楽しく遊びながら、逆走しない事を知らせています。遊びを通して、少しずつルールも学んでいるところです。



マットで転がり遊び



平均台とマットのサーキット遊び



風船と圧縮袋を使ってクッションを作りました・プールではフロートとして楽しめます。大人も乗れるので一緒に楽しみましょう。(^^)

★できることは一人ひとり異なる その子の「今」を認める

1歳児だから、2歳児だから〇〇ができるはず・・・と、型にはめて考えず、目の前の子どもの様子を認めます。やろうとしていることを最大限にできるような援助をかんがえましょう。



最近、「だめよ。」の声掛けが増えたように思い反省中です。
肯定的な声掛けを心がけていきましょう。

声かけのこつ

★子どもに寄り添う言葉かけを

ヒヤリとした時に、大きな声で「だめ！」や「あーっ！」などと言ってしまうことがありますが、その声にびっくりするのがけがのもと。ハッとしても慌てず、「〇〇したかったんだね、でもね、危ないの。」など気持ちに寄り添う声をかけ、他の遊びへと誘いましょう。

とっておきのこつ

★寒くても保育者が率先して外へ

寒い時期は、なかなか外へ出たがりません。でも、大好きな保育者が楽しそうに身体を動かしていれば真似をして走り出し追いかけてくるでしょう。しっぽ取りや、「よーいドン！」というのも喜ぶます。